

横浜市民ギャラリー 令和６年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	河原委員	竹森委員	西田委員
使命１ 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する。	<p>【評価できる点】</p> <p>市民ギャラリーという名前にふさわしく、利用者に寄り添った丁寧な貸館事業が行われたものと考ええる。それは非常に高い利用者満足度にも顕著に表れている。また、新規利用団体の受け入れも進んでおり、今後につながる活動ができていると高く評価したい。さらに、情報発信にも注力している点も重要である。地域や関係施設との連携を通じたギャラリー・美術施設の情報、展覧会情報の集約は時間も手間もかかると思われるが、こういった基盤的活動が市民の文化活動を下支えするものであり、今後も継続してほしい。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>貸館稼働率は前年比 99%であり、展示室利用率は 88%、アトリエ利用率は 61%ということで、一見すると更なる改善の余地があるように見える。ただし、少なくともアトリエに関しては、自主事業開催との関連で貸し出しができない時期を含めた数字であり、伸び幅は数字よりも少ないと思われるものの、できるだけ多くの市民に利用していただけるよう、時期や貸し出しの方法など更なる工夫を期待する。市民が実践したい文化活動ができるよう、引き続き拠点としての役割を最大限果たしていつてもらいたい。</p> <p>（一方で、横浜市全体の人口は既にピークを過ぎ、減少に向かうと思われる。県民ホールの閉館を受けて、今後短期的には需要が増大する可能性が高いものの、トレンドとしては少子高齢化の中で、文化活動を行う人々の絶対数を確保し、利用を促進するのは難しくなることが想定される中、利用者数の増加という指標だけでよいのか、一度検討する必要もあるかもしれない。）</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none">貸し館の公平性の担保。Ｕ３５の開催。インターネットでの情報発信。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">貸し館事業における展示アドバイス、マネジメント（プロモーション）方法の提案。「横浜画廊散歩」、「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」の情報発信事業が使命１として親和性があるか検討してほしい。展覧会情報のハブの役割の認知度の向上。受け手にハブとして認識してもらえるような取り組み。いりぐちギャラリーにおけるインパクトのある展示(展示内容、展示方法、情報伝達)。アーティストのインタビュー内容のわかりやすさへの工夫。（インタビュー手法の工夫。）アーカイブページ閲覧者からの問い合わせ増加の理由の分析。アーカイブページの閲覧者の増大。	<p>【評価できる点】</p> <ol style="list-style-type: none">アトリエの施設利用率が達成指標をクリアしている点「いりぐちギャラリー」の新設、定期的な展示替えによって、来場者へのプレゼンスを高めた点 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ol style="list-style-type: none">展示室の施設利用率および総来場者数の実績が達成指標に未達な点。Ｒ７年度は県民ホールギャラリーの休館に伴うニーズ等をきめ細かく取り込むことを期待します。アンケートにもご意見があるようですが、送迎車乗場の周知について検討をお願いします。アートヨコハマ等紙媒体の広報誌発行につきましては、印刷代、郵送代の高騰もあり、幅広い年齢層に情報発信するという観点からは紙媒体を継続しつつ、ＳＮＳ等を活用した情報発信もご検討ください。	<p>【評価できる点】</p> <p>「開館 6 0 周年」の令和 6 年度、業務取り組みにおける使命 1．活動の場の提供については、晴れの場、交流、公平な施設貸出等を心掛けての施設運営維持に努め、広報紙アートヨコハマの 60 周年記念 8 0 号、HP の情報発信、地域連携、入り口ギャラリーの設置等々、当該市民ギャラリーの存在が市民文化活動促進拠点として、大いに評価できる運営内容であったと思います。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>今後の取組みに期待する点として、2 点。</p> <ol style="list-style-type: none">活動の場提供のクオリティ向上について。経年劣化の対策に際し、予算、コストの問題もありますが、一階ホールの壁面の色など工夫の余地があるのではないかと印象です。壁面告知や、部分の工夫は良く見てとれますが、山の上に上がり、迎えてくれる「市民ギャラリー」のホールが明るく、アート活動の導きになるイントロが必要だと思います。受付配置がエレベーター付近に奥まっているのも、動線の案内かとは思いますが、例えば、受付机を斜めに配置するだけでも、訪れる市民にやさしくなるのではと思います。市民のアクセスについて。アンケートに多数記載の桜木町バス停から市民ギャラリーまでのアクセスについてです。指定管理者の皆様、視察でなく、市民と同じようにシュミレーションしてみただくと、ギャラリーバスの留まるところが、表示等分かりづらいようで、戸惑う、そうした市民の方々を折々見かけます。交通局との調整等が出来れば、ギャラリーバスはこの辺りと、表示の工夫ができるのでは。市民ギャラリーは、その道程、イントロ、そして鑑賞や表現、交流等を含め人々を豊かにしてくれると思いますので、条例や予算、コストのご苦勞もあると思いますが、今後のスピード感ある取り組みに期待したいと思います。
使命２ 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する。	<p>【評価できる点】</p> <p>「新・今日の作家展」は、若手作家や関連イベントなど多様な角度から情報発信、目標値を大きく上回る入場者数となり、満足度も高く、高く評価できる。また、企画講座も好評を博した。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>このギャラリーは、収蔵品を拡充していくというものでないため、活動成果を上げるためには、企画力が鍵を握る。令和 6 年度はその企画力が特に光る活動展開であったと思う。引き続き、情報収集とともに、横浜市民ギャラリーならではの企画を期待する。なお、収蔵庫の温湿度管理が不安定であるといった報告があったが、収蔵品の重要性は言うまでもなく、また、温湿度管理はミュージアムの根幹をなす基本的な機能である。作品が劣化してから修復するのはコストもかかり、また完全な状況に戻すのも困難であることが多い。早急に設置者とも相談の上、善処されることを強く希望する</p>	<p>（評価できる点）</p> <ul style="list-style-type: none">参加者の声のインタビュー調査。現代美術への取り組み。初心者講座の開催。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">「新・今日の作家展」のテーマ設定の意義の明確化。出張ワークショップにおける館の魅力のアピール。岩崎学園、横浜トリエンナーレ組織委員会、横浜シェイガイド協会との発展的な連携。町内会、学校、店舗などとのさらなる連携やミュージアムに親しんでもらうきっかけづくり。横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野との連携の強化。持続可能なファンを形成するためにさらに魅力的な講師の発掘。	<p>【評価できる点】</p> <ol style="list-style-type: none">自主事業への参加人数、および来場者（参加者）の満足度が達成指標を大きく上回る点。特に「新・今日の作家展」は史上 2 番目に多い入場者数を記録し、若手作家 2 名による展示の注目度が高かったことが窺えます。ミニトークの実施や作家による ＳＮＳ 発信等、新しい試みも評価できます。「大人のためのアトリエ講座」について 1 日完結の講座や初心者向け講座を開設し、参加者の拡大を図り、高い満足度を得たこと。アトリエの利用率向上にもつながったものと考えます。「横浜紅葉ヶ丘まいらん」について、幹事館として事業の取り纏めを行ったこと。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ol style="list-style-type: none">「いりぐちギャラリー」の周知や、アンケートにてご意見が多かった飲食場所の増設など、誰でも気軽にアートを楽しむことができる環境づくりについて、今後も継続的にご検討ください。助成金、協賛金等の獲得がＲ 6 年度は予算未達となりました。「新・今日の作家展」等について、助成金等の獲得に一層ご尽力されることを期待します。	<p>【評価できる点】</p> <p>市民ギャラリーとして、多様な価値観にふれるコミュニティ醸成に、様々取り組んでいる努力は評価できます。とりわけ、地域活動を展開する多様な団体との連携を図ることは、市民芸術文化活動促進に反映、機会提供の重要なポイントであり評価できます。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>演出の工夫も見えてとれますが、社会動向や、市民ニーズ、経済動向等の変化は刻々であり、客観的に見ても、今こそ、未来につなぐ視点を以て、工夫にとどまらず、60 年の牽引を力に、現在、未来への運営の在り方、意識等、総体のクオリティ向上が大切と考えます。</p>

横浜市民ギャラリー 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	河原委員	竹森委員	西田委員
使命3 引き出す契機となる。 収集作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を	<p>【評価できる点】</p> <p>令和6年度は、ギャラリー開館60周年ということで、これまで集積されたコレクションを活用した展覧会を開催した。来場者数は目標に到達しなかったが、入場者の満足度の高さからも、見ごたえのある展覧会であったと思われる。</p> <p>また、収蔵品の全国ネットへの情報提供も今後につながる重要な活動である。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>コレクション展は、非常に優れた内容であったと思われるが、せっかくの素晴らしい展覧会なので、より多くの市民が来館、鑑賞してもらいたいところである。広報の在り方だけでなく、実施時期やロジスティックス、他の施設、団体等との連携なども視野に入れ、より多くの方が来館されるように働きかけていただくことを期待する。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none">・「ヨコハマ漫画フェスティバル」における漫画コレクションの展示。・こどものためのコレクション展の開催。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">・漫画コレクションのさらなる展示公開。・福島瑞穂氏のインタビュー公開の検討。・鑑賞サポーターの育成。・温暖化に対応したコレクションの管理。・コレクションの特徴と魅力の発信とアピール。・コレクション展の際に、コレクションの特徴や魅力をキャプションで伝達。	<p>【評価できる点】</p> <ol style="list-style-type: none">1. コレクション展 2025 において、開館 60 周年の歴史とシンクロした展示を行ったことによって、当ギャラリーのプレゼンスを示すことができた点。鑑賞サポーターの活躍や小学生たちとの館内ツアー、作品解説文の文字の拡大なども、当展示の位置づけからよい取り組みと評価します。2. 文化財 I P Mコーディネーターの資格を取得し、体制を強化した点。今後も資格取得の拡大や情報共有により、収蔵作品の管理・保存に対する知見を深めていただきたいと思います。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ol style="list-style-type: none">1. コレクション展につきまして、コロナ収束後も来館者数が低迷しています。引き続き広報強化を図り、市民への浸透を推し進めてください。2. 備蓄作品の修復・クリーニングについて修復緊急度の高い物が残りつつあります。また、収蔵庫内の温湿度管理についても不安が残ります。横浜市と緊密に連携し、早期に抜本的な対策を検討する必要があります。	<p>【評価できる点】</p> <p>収蔵作品を次世代へ継承する、美術に関する関心喚起の機会を創出に注力は、当然の使命でもあり、今後とも取り組んでいただくことを期待します。専門家とのやり取りを密にし、修復やクリーニングを順次実施とあり、収蔵作品の継承や活用について着実に推進していると評価できます。とりわけ、収蔵作品の魅力を伝える「コレクションの地層」展覧会は、魅力の伝え方として、切り口に工夫や新しい視点を折込んでおり、運営スタッフの専門性や力量も含め高く評価したいと思います。「ヨコハマ漫画フェスティバル」等、改めて、市民が認識するところとなり、収蔵作品活用が現在未来へとつながっていく内容となっています。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>収蔵作品状態、修復の必要性、収蔵庫状況改善などについて、横浜市と協働し取り組んでいるとのことで、今後も市民の貴重な財産である収蔵作品について、協働の視点をもって積極的に取り組んでいただきたい。市民ギャラリーに特化した問題でなく、収蔵庫改善など、課題を抱えている館が、多いのが現状です。</p>
使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる。	<p>【評価できる点】</p> <p>「横浜市こどもの美術展」は、1 万人以上が参加、満足度も極めて高いものとして評価できる。また、ワークショップや鑑賞サポートなど積極的な活動とともに、障害のあることもたちへのアウトリーチ、ボランティアの受け入れなど、人的にもコスト面でも地味に大変な活動にも積極的に取り組んだことは、必ず将来につながっていくものと考ええる。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>子どもの数が必ずしも増えていかない中、作品応募数を維持するのは容易ではないと思うが、大切なことなので、教育や福祉などの他分野、学校や子供関連の他団体との連携も含め、さらなる工夫をお願いしたい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none">・展覧会ポスターを材料にした顔を自由に創作するワークショップ。・1 回完結型ワークショップ。・横浜市芸術文化教育プログラム。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">・展覧会ポスターを材料にした顔を自由に創作するワークショップのアップデート開催。ポスターに関連した過去の展覧会のレクチャーをサポーターに周知し、現場で子供達とのコミュニケーションとして展開。・館の特徴を理解してもらえるワークショップの開催。・横浜市芸術文化教育プログラムの継続と拡大。・市民ボランティアと学芸員の有効性のある連携（単なるお手伝いから離脱し市民と学芸員双方が学びの機会となるような）。・ボランティアやインターンが利用者に活動しやすくなるためのマニュアルのアップデート。・できる範囲で応募可能者の中で応募者の%を計測し、利用者のニーズを考察する。	<p>【評価できる点】</p> <ol style="list-style-type: none">1. インターンの受入れや市民ボランティアの活躍など、アートを身近なものとして共有できる環境づくりを行い、市民参加の間口を拡大した点。「作品カード」など、来館者にとっても鑑賞に色を添える楽しい試みだと思いました。2. 横浜市こどもの美術展のワークショップにおいて、企業から素材等の提供を受けていた点。企業メセナという観点からもとてもよい試みだと思いました。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 横浜市こどもの美術展について、コロナ収束後も入場者数が低迷しています。引き続き出品数の増加や広報強化に取り組んでください。2. ワークショップは子どもに人気かと思うしますので、より多くの方にご利用いただけるよう、事前予約制の導入や受入人数の拡大等、今後対応を検討することが必要かと思います。	<p>【評価できる点】</p> <p>基本的に使命4の考え方、取り組みがしっかりしており、実践内容も柔軟であり、よく注力されています。学生インターン、市民ボランティア、中学生の職業体験等、実際の現場体験を通しての文化活動促進は大いに評価できます。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>ワークショップについてですが、応募作品無審査展示や、年代に合わせた多様多種のワークショップについて、参加者や、一般の反響、効果等がありましたら、次へのプログラム、取り組みに反映させつつ、人々が、暮らしに豊かな芸術文化溢れ、心豊かな生涯を過ごせる横浜へと、更なる工夫を重ねていただくよう今後の取り組みに期待します。ワークショップのプログラムが魅力的に展開されており、館の皆さまの専門性と参加者の楽しさ、興味等の双方向性が期待され評価致します。惜しむらくは、参加者10名と限定的なところです。工夫の余地ありと思われます。</p>

横浜市民ギャラリー 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	河原委員	竹森委員	西田委員
使命5 持続可能性を高める施設運営を行う。	<p>【評価できる点】</p> <p>事故もなく、施設設備の良好な維持管理ができているものと理解した。</p> <p>また、自主収入が目標値を上回ったことも高く評価したい。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>公的支援だけでない多様な財源確保、資金調達は非常に重要である。経費削減にも限界があり、今後金利のある社会が想定され、物価高騰、人件費上昇が見込まれる中、改めてギャラリーの社会的価値をしっかりと示していく必要があると思われる。そのためには、少しでも多くの市民に利用してもらい、また、来館してもらうことが重要であろう。さらなる努力を望みたい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none">法令に基づく点検・修繕の着実な実施。職員の施設環境対応、防災訓練などの継続。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">帰宅困難者発生の際のシミュレーション（フリースペースの設置など）。防火・防災対策の一環としての消防団との連携。環境保護に対するタイムリーな理解の促進。	<p>【評価できる点】</p> <p>1. 施設の管理瑕疵に起因する事故件数が継続してゼロであり、また必要な法定点検や修繕についても滞りなく実施している点。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>1. 収蔵庫や展示室の温湿度管理に人的な対応が必要な状態が続いており、横浜市と緊密に連携し、早期に抜本的な対策を検討する必要があります。</p> <p>2. 築年数の経過に伴う修繕箇所増加に対処するため、中長期的な修繕計画の重要性が今後高くなるものと思われます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>快適な施設環境と来場者の安全を第一とした運営に注力は当然でもあり、評価できます。IPMの手法を通じた管理を確実にすべく努力等、各種研修なども妥当だと思います。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>持続可能性を高める施設運営には、繰り返しや先例にのっとってだけでなく、市民ギャラリーにとって、今後どのような在り方や改革が必要なのか、未来にむけてどのような持続可能性が求められるのか等を模索し、共有していただくことを期待しております。</p>
使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する。	<p>【評価できる点】</p> <p>十分に安全を確保しながら施設運営がなされたものと評価する。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>コロナ5類移行後も、静かな感染症が多発しているようである。不特定多数の人々が集まる拠点であり、今後も衛生対策を継続していったほしい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none">快適性の高評価。 <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">感染症全般への意識の向上。コロナ期に構築した方法論のリマインド。	<p>【評価できる点】</p> <p>1. 新型コロナウイルス感染症への対応について、アンケート結果の快適性が高評価を得ている点。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>特になし</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、市民の芸術文化活動の安全を担保する運営に注力とあり、評価します。昨今は地震やこれまで経験のない猛暑等、コロナに特化するだけでなく、様々な危機管理が必要となり、運営業務における容量も増加にて、大変だと思いますが、そうした状況下にあつて、「安全を担保する運営」の意識を高く評価します。</p> <p>【より一層の取組を期待する点】</p> <p>今後は新たな感染症や事態等も危惧され、常にアンテナをたてて、取り組んでいただくよう一層の取り組みを期待いたします。</p>
【その他】（使命1、使命6以外で何かお気づきの点があれば御記載ください）	<p>目標値の設定の在り方や、成果の見せ方については、現況に合わせて検討する必要があるのではないかと思います。</p>	<p>【より一層の取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none">アンケート調査以外のニーズの把握（単独の聞き取り、グループの聞き取り、モニター、他館との比較など）。開館 60 年を過ぎ、日本で最初の市民ギャラリーであり横浜市初の公設文化施設としてのブランディングの確立を期待。横浜のまちを顕在化するインパクトのある事業展開拠点としての存在感の増大。美術、芸術、文化に対して縁遠い人々を巻き込むような活動。美術の素晴らしさをわかりやすく提示。現代美術の存在意義の提示。必要不可欠な事業を明らかにして業務をスリム化し、労働の効率化と軽減を目指す。指定管理料のみに依存しない収入構造の開拓(ファンドレイジングの手法のケーススタディを行い検討する)。少子高齢化を意識した活動（市民ギャラリーあざみ野では認知症の高齢者のプログラムに取り組んでいる）。	<p>1. 令和6年度の収支予算及び決算につきまして、設備保全費の決算額が予算額に比して1,692千円少なくなっている点につき、備品の予期しなかった故障により、優先順位を考慮して設備保全費予算の一部を備品購入費へ充当した旨の回答を得ました。この点につき、予算について優先順位を考慮して執行することは重要ですが、施設の経年劣化への対応や収蔵作品への影響を考慮した場合、必要な設備保全を予算に従い毎年計画的に実施することも中・長期的には重要と考えます。今後も短期的な優先順位と中・長期的な優先順位のバランスに十分配慮した予算執行がなされることを期待します。</p>	<p>総体的には、日々市民文化活動促進に向けて向き合い、工夫もかさねてしっかり運営されていると評価します。</p> <p>各業務、着実に取り組んでいます。現在未来に向けて、現状認識と課題、及び改革革新すべき点等については、運営組織全員で共有していただき、市民とともにある市民ギャラリーでありますよう期待しております。客観的観点、視点による評価をさせていただき、一市民としても、何度か伺いましたがアクセスなど、行きなれている方々には、問題ありませんが、初めての方々へのわかり易い情報発信にも注力していただけると幸いです。実施のSNSの情報発信も効果的であり、引き続き、わかりやすく届く情報発信を期待しております。</p>

横浜市民ギャラリー 令和6年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	河原委員	竹森委員	西田委員
総括	<p>令和6年度は、開館60周年という記念の年であり、展覧会開催やワークショップ、講座など多様な事業活動が展開され、参加者に非常に大きな満足度を与えた。また、貸館事業についても極めて高水準を維持、次世代育成や地域連携も進んでいる。施設設備も十分安全かつ適切に管理運営されたと思われる。一方で、予算、人的体制の制約や、人口減、諸物価高騰などの外部要因も懸念されるところである。今まで通りの成果を上げるためには、さらなる努力が必要になるだろう。展覧会は、目標値の設定については既述のとおり細心の検討が必要だが、より多くの市民に鑑賞機会を与えられる方策をこれまで以上に検討・実施してもらいたい。</p>	<p>基本的な方針として掲げられている「市民の文化活動を支え、次世代育成を重視し、「地域と連携しながら「誰もが芸術文化に触れることができる機会」を提供」（資料1、1頁）するという方向性に則り、開館60周年記念事業に反映させている。財団が掲げる「社会課題解決に貢献する文化施設」（同、2頁）として、例えば子供や青少年の貧困、ワンオペ育児、就職氷河期世代、少子高齢化、地球温暖化、生成AIの影響などさらに幅広い「社会課題解決」を意識することが望ましい。以下、使命1～6の順に総括してゆく。</p> <p>使命1：美術施設の展覧会情報ハブとしてのミッションも、現状維持に終始せずアップデートが期待される。ハブの役割は単に情報の集約だけではない。市民にとって有効性のある情報の収集や精査によって形骸化を回避し本当のハブとなると思われる。アクセスにおいてはハンデが否めない条件で来場者獲得の方法論の構築は、同じ状況を抱えるミュージアム（例えば世田谷美術館や板橋区立美術館など）が同様に試行錯誤をしている。来場者の獲得のためにこのハンデについて何らかのアイデアが考案されることが望ましい。</p> <p>使命2：町内会、公共施設、教育機関、画廊、寺社仏閣、保育園等といった地域活動を展開する団体との連携(同3頁)も、視点を転じて市民ギャラリーの魅力を伝達する機会としても位置づけてはどうか。</p> <p>使命3：収蔵作品のコンテンツ化およびアーカイブ化の実現はミュージアムにおいて必須の事業だ。今後の課題としてその存在を一人でも多くの人々に周知してもらうことを求めたい。</p> <p>使命4：応募作品無審査での展覧会、ワークショップ、中学生の職業体験は、公立施設としての自覚が伝わってくる。美術を中心とした文化に対して多様な価値観を持つ次世代に伝えるためには、利用者の観察（プロフィール、リピート率）を行なってそれに対応するプログラムの開発が必要だ。</p> <p>使命5：持続可能性における、安全な施設維持といったハード面、防火防災といった公共施設としての役割、人権研修を踏まえた対応などが軌道に乗ったとしたら、さらに必要に応じた事業を検討してみてほしい。例えば、エネルギー対策の進展、地域産業との協働による経済効果の追求、ミュージアムが提供し得る福祉事業の考案、(簡単ではないにせよ)住み続けたくなる街づくりへの寄与、などが想起される。</p> <p>使命6：新型コロナウイルスは現在も撲滅されていないとは言え、今後はパンデミックや感染症全般を見据えることになるのではないか。視点を変え、新型コロナ対応として着手された方法論を過去のものとせずリマインドを促進するというフェーズに突入しているとも言えよう。</p>	<p>令和6年度における横浜市民ギャラリーの業務運営は概ね適切に行われているものと考えます。特に令和6年度は「開館60周年」を迎える記念の年であるため、展示内容や情報発信等に60周年の演出を加えることにより、市民ギャラリーとしてのプレゼンスをより高めることができたものと思います。</p> <p>従来からサポーターや市民ボランティアの参加など、いわば市民参加型の運営が行われており、これにより草の根レベルで幅広い世代へアートを浸透させることにつながっているものと考えます。</p> <p>また「新・今日の作家展」は、独自の視点から気鋭の若手作家を登用し、質の高い展示や情報発信により来場者の満足度も高く、ギャラリーとしての気概が感じられる展示でした。</p> <p>今後も横浜に根ざした親子孫3世代に親しまれるギャラリーであり続けると同時に、ユニークでチャレンジングな展示を行うことで、横浜における芸術文化の底上げを担っていかれることを期待します。</p> <p>他方、来場者数は、コロナ前に比較して十分に回復しておりません。来場者アンケートの満足度は高いため、来場される方の評価は高いものの、市民ギャラリーとしての立ち位置を考えた場合、今後はより多くの来場者に来てもらい、市民レベルでのアートの発信拠点としての機能を一層高めていただきたいと思います。</p> <p>また、従来からの課題ではありますが、施設の経年劣化への対応や収蔵庫や展示室の温湿度管理につきましては、喫緊の課題かと思われます。昨今、人件費や光熱費の高騰もあり、予算的に厳しい状況が続くものと思われます。横浜市と緊密な連携を取り、課題解決に向けて抜本的な取り組みを進められることを期待します。</p> <p>同時に、指定管理料に依存しない収支構造に少しでもシフトすべく、自主事業収入の拡大や助成金・協賛金の獲得についても、引き続き積極的に取り組まれることを期待します。</p>	<p>1) 令和6年度の基本的方針に沿っての取り組み総体につきまして、業務報告、定量指標の推移、各重点的に取り組まれた事項、課題等もつぶさに拝見し、また視察等総合致し、市民ギャラリーの業務評価につきまして、着実に業務を実施されており、随所に工夫や専門性も活かしつつ運営につとめておられ、今後益々の期待ができます。</p> <p>2) 予算、コスト、人員体制等も勘案しますと、業務範囲も広く、種々制約もありますが、中でも、評価できるのは、入り口ギャラリーの取り組みにおける、鑑賞者、来場者へのメッセージの在り方です。入口ギャラリーは、本当に手作り感の印象ですが、そこに、ギャラリーからの、努力と歓迎のメッセージが来場者に伝わる場所に、コミュニケーションが通い、館運営の心意気が見てとれます。「新・今日の作家展」の取り組み、「コレクションの地層」は全体構成も魅力的であり、ギャラリーの冊子と鑑賞サポーターによる冊子がついになっており、1978年の「ヨコハマ漫画フェスティバル」の紹介などもあり、集収作品に新しい視点をこめての取り組みが素晴らしい、さらに地域連携も強みとなり、まさに「市民ギャラリー」は横浜の文化芸術活動促進の拠点であるとして高く評価したいと思います。</p> <p>3) 持続可能について。総体よい業務推進に取り組んでいますが、上記にも述べましたが、60周年から、次の60周年へと社会も市民も動いています。これまでの経験を活かしつつ、運営に際して新たな視点、未来にむけて改革はどうあるべきかを柔軟かつスピード感を以て共有していく段階にあると思います。</p> <p>4) 市民ギャラリーは市民の貴重な財産であり、地域連携に加え、ファンドなど市民とも連携することにより、運営に一層のあつみが出るのではないかと今後に期待します。地方の美術館では、実施、入り口のプレートに記されている事例もありますが、参考までです。</p> <p>5) 危機管理においても市民の文化芸術活動の安全担保を掲げ、評価できますが、加えて、運営組織の皆さんの待遇やモチベーションも含め、市民ギャラリーの在り方、クオリティを共に高めていくことが若い世代にも、多様な市民にとっても大切であり、文化芸術の拠点として、よこはま市民ギャラリーの今後に一層の期待をしたいと思います。</p> <p>おわりに、市民の文化芸術活動は多岐にわたり、又AI化にみるように、社会動向の変化や新しいニーズも市民生活の進捗に伴い変化しています。そうした中で、心豊かに潤いある文化芸術活動の意義は大きく、限られた予算、人員等もありますが、館長さん始めスタッフのみなさまもこうした使命を踏まえ、心地よい市民のギャラリー、誰でも、いつでもを、運営の視点に入れて努力されておられること高く評価致します。若い世代を中心とした、新たな利用者来場者獲得にも徐々に着手しており、今後も運営総体を俯瞰した取り組みを期待いたします。</p>

行政評価

【使命1】文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する。

【評価できる点】

- ・市民の文化芸術活動を支える場として、貸館事業の稼働率は高水準を維持し、利用者との丁寧なコミュニケーションや公平な抽選制度の実施により、施設利用の公正性が確保されており、信頼性の高い運営を評価します。
- ・新規利用団体の受け入れも着実に進められ、新規登録団体数は21件と目標の20件以上を達成し、利用者アンケートをもとに運営改善を図るなど、利用者目線の丁寧な対応を評価します。
- ・地域や関係施設と連携しながら、市内のギャラリー・美術施設の基本情報を集約した「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」や美術施設の展覧会情報を集約し発信する「横浜画廊散歩」「アートヨコハマ」の発行・配架は、「誰もが芸術文化に触れることができる機会」の発信に大きく貢献しています。
- ・「U35 若手芸術家支援事業」においては、個展を開催するにあたり、チラシ作成や展覧会場のレイアウトに対するアドバイスなど、実施に至るまでサポートを行い、将来の文化担い手の育成にも貢献しています。

【より一層の取組を期待する点】

- ・飲食スペース設置への要望が継続して寄せられており、美術施設としての環境維持とのバランスを取りながら、利用者への丁寧な説明やニーズへの柔軟な対応が望まれます。
- ・施設利用率・総来場者数の目標達成に向け、引き続きアンケート調査等から、利用者の利便性改善の視点を持ち続け、利用者・来場者増に向けた施設運営に活かしていくことを期待します。

【使命2】文化・芸術の鑑賞の機会を提供する。

【評価できる点】

- ・「新・今日の作家展」は、注目度の高い若手作家2名を迎え、作家インタビューやミニトークなどの関連イベントの実施や作家自身のSNSでの発信の効果もあり、目標を大幅に超える4,832人と初回(5,656名)に次ぐ入場者数に繋がりました。アンケートの満足度も4.81と最も高い水準であったことを高く評価します。
- ・企画講座においては、定員をコロナ前の水準に戻し、人気の定番講座のほか初心者向け講座・1日で完結する講座を開催し、新規参加者も受講しやすい企画内容としたことを評価します。全ての講座で定員を超える応募者があり、参加者のアンケートも過去最高の4.81と高い満足度に繋がりました。
- ・近隣5館連携の「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」の事業のとりまとめ館として、広報動画やホームページの新設、紹介マップやPRグッズ作成、合同で実施したスタンプラリーとパネル展示等積極的に発信し、幅広く活動を周知できるよい機会となりました。地域連携事業では新たに4団体と連携し、文化の裾野拡大に貢献しました。
- ・エントランスロビースペースを活用した「いりぐちギャラリー」では、これまでの横浜市民ギャラリーの歴史や活動内容を紹介し、初めて市民ギャラリーを訪れる方への導入として、また文化に触れるきっかけとして、気軽に見ていただける展示の機会を提供できました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」の5館連携や地域・団体との取組継続により、更なる地元の活性化に寄与することを期待します。
- ・企画力・発信力の強化とともに、広報手法の多様化による集客力向上が期待されます。

【使命3】収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる。

【評価できる点】

- ・「コレクション展」は、30年以上にわたり集積された収蔵コレクションの歴史が感じられる開館60周年に相応しい企画内容となり、ワークショップや小学生向けに館内探検ツアーを実施するなど、幅広い年代の方が興味を持ってご参加いただけるよう工夫を凝らし、来場者数は目標4,000人に届かなかったものの前年比10%増の3,689人、満足度は4.67と高い水準となったことを評価します。
- ・収蔵作品の魅力が伝えられるよう、館内・送迎車モニターでの紹介をはじめ、全国美術館サーチ「SHUZO」への情報提供も実現し、コレクション展ワークショップや子供向け企画の開催、収蔵作品に描かれた場所を巡るツアーを協力して実施するなど、外部発信力が向上し、関心を喚起する取り組みがなされました。
- ・IPMを取り入れた収蔵庫の温湿度管理を適切に行い、作品の環境維持に努めた点を評価します。
- ・収蔵作品の修復も進み、燻蒸処理された215件のうち91件が未処置となるまで修復できました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・より多くの方へ周知できるよう、ホームページやSNSでの情報提供やエントランスモニター等での作品紹介、オンラインによる配信などを充実させる取組を継続することに加え、実展示についても多彩でユニークな企画による更なる鑑賞者の拡大に繋がる計画・運営を進めてください。

横浜市民ギャラリー 令和6年度指定管理業務・行政評価シート

【使命4】文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる。

【評価できる点】

- ・「横浜市こどもの美術展」では、前年度から約100点増えた1,485点の応募、来場者数10,377人、満足度4.93と非常に高い成果を達成しました。
- ・ハマキッズ・アートクラブや横浜市こどもの美術展でのワークショップや鑑賞サポートを実施するなど、次世代育成に積極的に取り組みました。
- ・インターンやボランティアの受け入れを通じて、世代間交流とキャリア形成支援を実現できています。
- ・障害のある子どもへのアウトリーチを実施し、包摂的な文化活動が展開できました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・個人からの作品応募数が減少しており、募集情報の発信方法や時期の工夫などによる参加者への周知方法を検討してください。
- ・ワークショップの内容については好評だったため、運営面における改善（混雑緩和、回転率向上）を行い、更なる参加者満足度の維持に努めてください。

【使命5】持続可能性を高める施設運営を行う。

【評価できる点】

- ・法令に基づく点検・修繕を着実に実施し、施設管理瑕疵による事故件数は0件、法定点検実施率100%を達成し、安全な施設運営を実施しました。
- ・IPM（総合的有害生物管理）の定例会議や防災訓練の実施により、職員の意識向上と環境維持に貢献しました。
- ・光熱費の高騰が続く中、自主収入は1,629万円と目標の1,500万円を超過し、収入源の確保や経費削減により、良好な収支バランスを達成できました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・光熱費高騰などの社会情勢の変化への対応と、修繕予算の確保による持続可能な運営体制の構築を期待します。
- ・少人数体制時の緊急対応力の強化のため、職員スキルの平準化に向けた取り組みが望まれます。

【使命6】新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する。

【評価できる点】

- ・「ウィズコロナ」への移行に伴い、衛生管理を徹底し、アンケートによる快適性評価は4.41と高く、「きちんと消毒されていて安心」との声も寄せられました。柔軟な対応により、市民の文化活動の安全を担保する施設運営が継続されました。

【より一層の取組を期待する点】

- ・状況に応じた柔軟な衛生対策の継続と、情報共有体制の強化を期待します、

総括

令和6年度における横浜市民ギャラリーの運営について、開館60周年という節目の年にふさわしい多彩な事業を展開し、記念事業を通じて施設の認知度と市民参加を高め、施設の公共性と文化的価値を高める運営を実現しました。

特に、文化芸術活動の促進においては、貸館事業の展示室利用率は88%、アトリエは61%と展示室利用目標には到達しなかったものの高水準を維持し、新規利用団体の受け入れや若手芸術家支援事業の実施など、利用者層の拡大に努めた点を評価します。また、自主事業では「新・今日の作家展」や「コレクション展」など、質の高い展覧会を通じて市民の鑑賞機会を創出し、満足度の高い文化体験を提供できました。

さらに、次世代育成や地域連携の面でも、子ども向けワークショップやインターン受入、地域団体との共催事業などを通じて、幅広い世代が芸術文化に触れる機会を創出し、地域に根差した文化施設としての役割を果たしています。

施設運営面では、事故ゼロ、法定点検100%実施、IPMによる環境管理も継続され、安全性と快適性が確保されました。一方で、印刷・郵送費の高騰、収蔵庫の温湿度管理の不安定さ、助成金獲得の難しさが課題として挙げられます。また、SNSやWebを活用した広報の強化、地域連携のさらなる深化について、今後の取り組みを期待します。

指定管理者は本施設の使命を的確に理解し、文化芸術の振興と市民サービスの向上に資する運営を行っており、今後もその専門性と柔軟性を活かした取り組みの継続が望まれます。